

田舎館の業者に決定

弘大GOGOファンド第2号

ハーブ乾燥新技術へ助成

弘前大学が地元企業との共同研究に研究費を交付する独自の基金「弘大GOGOファンド」の採択第二号に、弘大農学生命科学部の齊藤寛准教授と、田舎館村の食品製造業者「ケイ・エイム・ナチュラル」(立俣隆代表取締役)による、「ハーブ類の香気成分の損失を抑制するフリーズドライ法の開発」が決まった。

研究期間は七月一日か

ら一年間で、助成額は三百五十六万五千円。弘大とケイ・エイム・ナチュラル社は二〇〇一年度から、主に果物のフリーズドライ法について共同研究してきた。

今回採択された研究の対象は、ハーブ類。同社によると、市販のハーブ類は保存上、乾燥されたものが大半だが、生葉のものに比べて香りが数段、劣る難点があっ

つ独自のフリーズドライ法の開発、商品化に乗り出す。弘大側は、高性能の機械を用いて香り成分や色の変化を測定したり、試飲などのモニター調査に協力するなどして、分析・助言する。同ファンドは、地元企業を支援して県の産業振興を図るため、弘大が独自に二千万円の基金を設けて二〇〇五年十月に創設した。一年ほどで解決できる具体的な課題について、最大五百万円まで支援する。研究課題は随時、募集している。